

2050年 カーボンゼロ社会 実現へ！

地球温暖化対策の新たな国際的枠組みが決められた2015年のパリ協定（COP21）から既に5年。この10月、日本政府として初めてそしてようやく、2050年までに二酸化炭素ネット排出量ゼロ（カーボンニュートラル）にするとの政策目標が発表されました。今から即時に【気候中立Ready】、その後【気候中立】を目指すなければならない社会状況になりました。

2008年から一貫して「低炭素型社会の実現」に向けての国内外のさまざまな事例や取組みを発信・提言してきた一社クラブヴォーバン（CV）。これまで開催してきたPJ80セミナーを“PJ100セミナー”（PJ100:プロジェクト'90年比CO₂排出量マイナス100%）と名称改め、発信するだけでなく自らも実践者として取り組んでいるCVコアメンバーの、現在進行中の“持続可能な発展”のための活動や取組みをご紹介します。

「いい話を聞いたね」で終わりではなく、このセミナーがぜひ、皆さん自身の今後の活動へと繋がっていき、コラボする機会になっていけたらと願っています。

2021年1月20日（水）18:00~20:30

Zoomにて開催

事前申し込み要 CVサポーターのみ 参加費無料
（法人および自治体の方は3名まで）

■ 問い合わせ・申込み先 ■

一般社団法人クラブヴォーバン

Email mail@club-vauban.net

①ご氏名 ②ご所属（法人および自治体の方） ③メールアドレスを明記 後日参加に必要な情報をメールにてご連絡致します

講演1 太陽光発電ビジネスの新しい展開～ 事業用PVの自家消費メインの取り組み

家庭用の太陽光発電と異なり、産業・事業用の太陽光発電はこれまでFITによる全量買い取りがメインでしたが、太陽光発電のシステム価格（パネル・パワコン・設置工事）が日本でも安価になってきたため、FITに頼らなくても事業者の所有する建物の屋根の上で発電し自家消費すれば、電気を購入するよりも安価になるような事業モデルが可能となってきています。そのビジネスモデルの課題や事例について、解説します（45分）

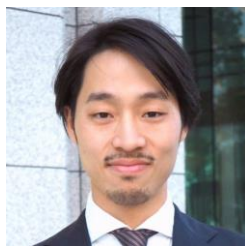


元リフォーム産業・工務店新聞取締役編集長。全国の住宅・建築・不動産経営者への取材は数千人。ドイツの省エネ・再エネの研究調査をベースに、企業・行政に対して高気密・高断熱住宅に関するコンサルティングや情報提供を行っている

中谷 哲郎
 （株）日本エネルギー機関代表

講演2 ゼブラ企業と持続可能な企業経営

「ゼブラ企業」とは、1. 社会的インパクトの創出 2. （株主のみならず）多様なステークホルダーへの貢献 3. 他のプレイヤーとのコラボレーション 4. 革新性を有する企業の総称です。2016年、アメリカ西海岸から始まったムーブメントは、全世界で6,500人以上のメンバー、60以上の支部を設立して、世界に広がっています。本講演では、そうしたゼブラ企業をめぐるグローバルなトレンドと、その経営スタイル・在り方について紹介します（45分）



経産省にて東日本大震災を踏まえたエネルギー政策見直し、電機産業政策等を担当。その後VC/新規事業コンサルとして、105億円の資金調達をした宇宙開発ベンチャー等を支援。現在は社会企業家の支援や社会課題を解決する金融を推進している

陶山 祐司
 社会起業家 / （株）至真庵代表

講演3 ニセコ町SDGs街区の進捗

クラブヴォーバンも参画している北海道ニセコ町でのまちづくり会社の街区開発事業。前回のセミナーでは、事業母体となる「株式会社ニセコまち」の設立について、街区開発や事業概要についてご紹介しました。ほぼすべての建物の配置や道路配置が確定してきましたので、今回は実際に街区の図面をお見せしながら、どのようなコンセプトでまちづくりを構想しているのかの続報を紹介致します（30分）



東京のベンチャー企業の創業に携わり、主にWEBや動画やSNSを活用した採用・マーケティング支援などに従事。その後、地元札幌で起業。企業や自治体、地域金融機関らの情報発信や、事業再生および事業継承支援、持続可能なまちづくりに取り組んでいる

田中 健人
 （株）ニセコまち取締役